

国語 第4学年 理由や例を挙げて、考えを書こう

検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し: 中心はB(1)ウの、自分の考えと理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫することと、〔知識及び技能〕(2)アの考えと理由や事例の関係の理解。本時はその中心の時間で、理由と事例を結び直して中の段落を書く。

指摘 2: 評価規準は何か。どこで見るのか。

返し: 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第4・5時のカードの仲間分けとノート、知識・技能②は第3時のカードと第8時の文章、思考・判断・表現①は本時の組み立てメモと下書き、第8時の文章、態度①は第1時と第9・10時で見る。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: B(2)ア「調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動」。自然災害への備えについて調べ、考え・理由・事例を挙げた文章を書いて読み合う。

指摘 4: 個に応じた指導はどうするのか。

返し: 調べるのが苦手な子には、先生が学校図書館の本と市町の防災の資料から、読みやすい物を選んで渡す。書くのが苦手な子には、つなぐ言葉を入れた段落の型を渡す。早く終わる子には、事例を二つ挙げて比べる書き方を考えさせる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 5: ICTは使わないのか。

返し: 二つ想定している。第3時にインターネットで市町や気象の情報を調べること、組み立てメモを端末の付箋にして理由と事例の組を動かすこと。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。インターネットの情報も、本と同じく作った所を書かせる。端末が無ければ紙のカードで同じことができる。

指摘 6: 教科書の作例どおりに書かせればよいのではないか。

返し: 作例は第5時に、考え・理由・事例の書き方を見付ける資料として使う。テーマと事例は子どもが調べた物から選ばせる。本時の比べる文章も先生が作った物にして、作例を写すだけにならないようにしている。指導事項から組んであるので、どの会社の教科書でも置き換えられる。

指摘 7: 10時間は多い。時間が足りない。

返し: 10時間は光村図書の年間指導計画例の配当に合わせた。調べる時間（第2～4時）は、社会科の自然災害の学習や学校図書館の時間と重なると短くできる。第3の1(5)は書くことの指導で「実際に文章を書く活動なるべく多くすること」としているので、書く時間（第7・8時）は削らない。

指摘 8: 発問が多すぎないか。

返し: 本時の中心発問は「この事例があると、どうして考えに納得できるか」の一つ。導入のAとBを比べる問いは、この中心発問に入るための問い。全体には中心発問とめあてだけを板書する。

指摘 9: 板書はどう使うのか。

返し: 先生が作った二つの文章を並べ、理由と事例が矢印で結べるか、結べないかを見せる。中央の組み立ての枠は、組み立てメモと同じ形にして、子どもが自分のメモと見比べられるようにする。

指摘 10: 災害の話題で不安になる子がいたらどうするのか。

返し: 事前に家庭や前の担任から、子どもの経験を聞いておく。扱う写真や資料は先生が選び、学習の重点を「自分や家族ができる備え」に置く。家での備えを書く時は、家の事情を書かなくてもよいようにし、学校や地域の備えを題材にしてもよいことにする。

指摘 11：振り返りは何を書かせるのか。

返し：「理由と事例を結ぶために直した所」と「次の時間に書くこと」の二つ。一つ目で、自分の文章を粘り強く確かめたかを見て、第9・10時の態度①の評価に生かす。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第3学年及び第4学年〕2内容B書くこと(1)ア・イ・ウ・エ・オと(2)ア、〔知識及び技能〕(2)ア・イ、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

